

島根県私立中学高等学校優秀教員表彰者名簿

令和6年度表彰者			
No.	氏名	所属(法人・学校)職	表彰の理由
13	オオダ ミツル 太田 充	学校法人 淞南学園 立正大学 淞南高等学校	<p>平成8年、立正大淞南高校に入職以来、体育科、社会科を受け持ちながら、部活動では野球部を担当。当初から部長として、平成19年からは監督として、野球の技術だけでなく、学習指導、生活指導にも力を入れている。野球部の生徒の多くは県外の中学校出身者で、遠く親元を離れて寮で共同生活を送っており、時には親代わりとして生徒の相談相手も務めた。</p> <p>野球部は全国高校選手権大会3度出場(内ベスト8が1回)、中国地区大会には春夏で17回(最高位準優勝1回)、島根県大会春季・秋季大会では合計10回の優勝を飾り、県内屈指の強豪校に育て上げた。令和4年、高校野球の育成と発展に貢献した指導者として「育成功労賞」を受けた。</p> <p>生徒には野球人としての成長だけでなく、野球以外の分野、社会でも活躍できる人となるよう指導している。</p>
14	ミヤノ ケンシ 宮野 健嗣	学校法人 松徳学院 松徳学院中学校高等学校	<p>平成7年、公立高校の勤務を経て、松徳学院中学校・高等学校に入職。男女共学化に伴い新設したアドバンスコース(進学特化コース)の開設責任者の一人として立ち上げからかわり、組織体制づくり、教育課程の編成等に尽力し、今に続くアドバンスコースの基礎を作り上げた。</p> <p>令和2年からコース主任(主幹教諭)として進学指導体制の改革を進め、生徒の自立的な学習意欲を引き出し、教員間にチームティーチングを浸透させた。また、生徒の自己実現の学習スタイルが発揮しやすいよう教室等の環境整備にも力を注ぎ、国公立大学や有名私立大学への進学実績を伸ばしてきた。</p> <p>主幹教諭として生徒のみならず、教職員からも厚い信頼を得ている。</p>
令和5年度表彰者			
No.	氏名	所属(法人・学校)職	表彰の理由
10	ムラカミ マナブ 村上 学	学校法人 水谷学園 出雲北陵中学・高等学校	<p>2004年に入職以来、中学校8年、高校で11年勤めている。クラス担任を始め、特に校内分掌では広報資料保存部に属し、学校広報(HPも含む)などの分野で力を発揮、部長も務めた。</p> <p>写真部の顧問として、生徒の写真活動に指導助言を惜しまず、全国高等学校総合文化祭に4度出展。全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園)では、中国ブロック審査会に2018年から2022年まで連続出場を果たすほか、2019年、2021年には全国3位の入賞をなしている。2023年も全国高等学校総合文化祭、全国高等学校写真選手権大会中国ブロック審査会に出場を決めている。生徒のカメラ技術を磨き上げるだけでなく、観察力、芸術力を引き出し、県内だけでなく、全国にも通用する力を発揮、写真強豪校に育て上げている。</p>
11	アオキ カズノブ 青木 和伸	学校法人 大多和学園 開星中学高等学校	<p>2003年に入職以来、中学、高等学校で英語教育を担当、主体的に学ぶ姿勢を育て、インタラクティブな授業を展開している。ICTを活用した授業をいち早く取り入れ、2016年には一人一台端末での授業活用例を『Find! アクティブラーナー』に発表するなど、語学授業の新展開を進めた。</p> <p>2020年、開星中学・高等学校にGoogle for Education(現Google Workspace)を導入し、ICTを活用した授業の促進に努めた。2021年には主幹教諭、教務情報部長として生徒の欠席連絡や指導要領などを管理する校務支援システムを導入し、校務のDX化を進めている。2023年、『中学校 英語×ICT』を出版、ICTを活用した教育の良さと可能性を紹介、教育現場での普及に努めている。</p>
12	ミナミ ケンジ 南 健司	学校法人 淞南学園 立正大学 淞南高等学校	<p>1993年入職、体育の教師を務めながら、長年にわたりサッカー部を指導、年を追って実力をつけ、インターハイ出場16回(内Best8、4回)、全国高校サッカー選手権出場19回(内Best8、1回)と県内では最多の全国大会出場歴を持つ強豪校に育て上げた。部活指導を通じて、生徒にはサッカーへの情熱、取り組みを決して忘れることのないよう、進路先での鍛錬も熱く唱え、卒業後もサッカーに関わる生徒が多く、今日までに29名にも及ぶプロサッカー選手も輩出している。</p> <p>また、指導力、育成力は秀逸であり、2013年には国際ユース(デュッセルドルフ)大会では日本高校選抜のコーチを務め、日本チームの初優勝に貢献している。2015年、島根県体育協会から島根県優秀指導者賞を与えられた。</p>

令和4年度表彰者

No.	氏名	所属(法人・学校)職	表彰の理由
7	イシクラ タダン 石倉 正	学校法人水谷学園 出雲北陵中学・高等学校	同校に着任以来、芸術分野での教科指導、生徒指導に熱心に取り組み、同校の特色でもある美術・CGデザインコースの発展に貢献した。美術工芸教育を通じて、生徒たちの創作意欲を引き出し、県内外の各種映像コンテスト、広告コンテスト等に生徒作品を出品、そこで高い評価を受けている。また、自らもしまね映画塾に参加し、2006年には「清水奇譚」で最優秀脚本賞、07年には「わたしのおじいちゃん」で最優秀監督賞を受賞した。最近では校内のICT教育推進委員会のリーダーとして国の進めるGIGAスクール構想の実現に尽力している。
8	ホソキ ヤスヒロ 細木 康弘	学校法人江の川学園 石見智翠館高等学校	同校内に立ち上げた難関国立・私学大学を目指す特別進学コース(智翠館特別コース)で20年来、学習指導、進学指導を続ける一方、教員の資質向上や中学校へのPR活動にも尽力してきた。平成29年には特別進学コースの教頭に就任、強いリーダーシップで学習指導体制を強化し、生徒・保護者との面接を重視しながら、進学実績を着実に積み上げてきた。最近では難関国立大学だけでなく医歯薬系大学にも多くの合格者を出すに至り、智翠館特別コースは県内私立学校の進学コースではトップの実績を誇り、また県立高校理数科にも引けを取らない存在にまで高めた。
9	キハラ カズヤ 木原 一也	学校法人淞南学園 立正大学淞南高等学校	同校では音楽の教科指導を行いながら、マーチングバンド部では創設時から平成23年まで顧問を務め、全国高校総合体育大会での公開演技や全国高等学校総合文化祭出場などの実績を重ね、音楽教育活動を通じて同校の知名度を高めた。また、平成25年からは射撃部の顧問となり、全国規模の大会出場を幾度と経験、令和元年度から3年間、同校射撃部は全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会で連続日本一を成し遂げた。令和2年の同大会では「日本新記録」をマークしている。音楽科の学習指導に加え、平成17年には情報科の教員資格免状も取得し、情報科の授業も受け持っている。

令和3年度表彰者

No.	氏名	所属(法人・学校)職	表彰の理由
4	クラカゲ ヒロキ 倉掛 裕喜	学校法人大多和学園 開星中学高等学校	同校(中学校)のサッカー部を指導し、県中学総体では6度の優勝を飾る。自らも日本サッカー協会A級指導者資格(U15)を有している。平成28年に同校学校生活部長、30年からは研究開発部長に就き、同校の授業改善を進め、特に探究学習の開発に尽力した。令和2年度は日本私学教育研究所の委託研究員も務めた。
5	タナカ カオル 田中 薫	学校法人大多和学園 開星中学高等学校	当該校が平成25年、文科省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の指定校を受けるにあたり、中心的な役割を担い、同年からSSH部長として探究的な学習、課題研究の取り組みを進め、学外研究機関とも連携しながら、事業の普及に努めた。令和元年からは同校広報企画部長として、教科融合教育プログラム(スマイルプログラム)を考案、その広報や教育実践を進めている。
6	タケウチ ヤスタカ 竹内 康貴	学校法人水谷学園 出雲北陵中学・高等学校	着任以来、同校の音楽科指導、生徒指導に熱心に取り組み、特に吹奏楽部顧問として、同部を中国大会、全国大会に度々出場させ、平成22年には日本管楽合奏コンテスト全国大会で最優秀グランプリ・文部科学大臣賞を受賞、翌年には全日本吹奏楽コンクールでも金賞を受賞した。同校の吹奏楽部を全国大会常連校に育て上げた。出雲市の「出雲ドーム2000人の吹奏楽」の企画運営に加わり、音楽を通して地域貢献も行っている。

令和2年度表彰者

No.	氏名	所属(法人・学校)職	表彰の理由
1	フルセ ヤスユキ 古瀬 泰之	学校法人水谷学園 出雲北陵中学・高等学校	平成16年に同校に卓球部を創設。当初から監督として技術指導だけでなく、きめ細かい生活指導や学習指導を行いながら、生徒を文武両面で鍛え上げ、中国地区はもとより全国大会にも幾度と出場を果たし、好成績を収めた。その功績により競技連盟から優秀指導者等の表彰を受けている。近年はICTを活用した強化し度を積極的に行うことで、学習能力の向上に努めている。
2	ハマヤ アキラ 浜屋 陽	学校法人大多和学園 開星中学高等学校	長年進路指導に携わり、進路実績の向上に貢献するとともに、進路アドバイザー検定の認定者として後進教員の指導にも力を入れている。平成26年からは、学校の研究開発部長として探求型授業の開発や課題研究の指導に携わり、職員の資質向上に寄与した。ICTを活用した授業も積極的に取り入れ、生徒の学習能力の向上に努め、28年には同行の教頭に昇任、学校の組織改革や未来構想の実現に向け取り組んでいる。
3	マツウラ リョウ 松浦 亮	学校法人大多和学園 開星中学高等学校	同校の中高一貫コール開設にあたり、6年間の教育方針(「開星ドリカムプラン」)を作り、自ら担任を務めるとともに、授業にアクティブラーニング(「7つの習慣」など)やディベートを積極的に取り入れ、生徒の自立・自律を育て、思考力・発表力を伸ばす教育に努めた。生徒によるディベート甲子園の出場も果たした。平成28年からは同校の教頭を務めている。